

提出日：令和 3 年 2 月 17 日

所 属： 獣医学部 獣医学科

氏 名： 青木 卓磨 職位： 准教授

I ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任（教育活動の範囲）				
学部ならびに大学院教育を担当しており、主に小動物臨床で、一般外科や手術に関する実習と、循環器および呼吸器疾患を担当している。また、前述の臓器において産業動物も教育している。				
科目名	学科・専攻	必, 選, 自	配当年次	受講者数
小動物獣医総合臨床	獣医	必	5	140
獣医外科学実習	獣医	必	5	140
総合獣医学	獣医	必	6	140
小動物臨床実習	獣医	必	5	140
獣医内科学	獣医	必	4	140
獣医放射線学実習	獣医	必	5	140
小動物病院実習	獣医	選	6	140
産業動物臨床実習	獣医	必	5	140
2. 教育の理念（育てたい学生像, あり方, 信念）				
学生には教科書やエビデンスに則った教育を実施している。一方で、小動物臨床には十分なエビデンスが揃わない事例も多く、未解決な点も多いが、その場合は自身の経験談、他施設ならびに専門家の報告を紹介する、あるいは現時点で報告から考えられる最良の解決法と一緒に考えられるようにしている。臨床に関する知見は膨大であり、また毎年更新されるため、2～3年間の履修期間ですべてを体得することは不可能である。臨床の実例もおいても教科書通りにいかないことは多々ある。そのことから、問題にぶつかった場合には自ら調べ、対応する能力が必要となる。私は、学生には自分で調べると言った習慣を持ってほしいと感じており、昨今の一方的に情報を与えられるだけ、受けるだけの姿勢には疑問を持っている。そのため、問題解決のためにどのように調べるべきか、また論理的思考法を教え、問題があった場合にみずから積極的に調べ、対応出来る学生を育てたいと考えている。				
3. 教育の方法（理念を実現するための考え方, 方法）				

教科書を示すだけでなく、学生には実例をみてもらうことで、よりリアルな診療風景を思い浮かべてもらい、自分で疑問を持つチャンスを与えている。具体的には、実例をあげ、臨床徴候から推測される鑑別診断、臨床徴候や画像診断を含めた動画や写真などの提供、心雑音や肺の雑音など音源の提供を行い、手術であれば手術動画を短く編集して授業内で示している。また、獣医領域ではクライアントごとに治療法が異なることもあるため、クライアントの要望に沿った治療選択肢を複数示すことで、現場をリアルに想像してもらおうよう指導している。実習中には、学生に積極的に質問し、回答させることで自ら考える能力を養わせている。麻布大学においても視覚優位の学生が増えているため、前述の通り、授業の資料には必ず動画を交えているが、その際には音などを含めることで、より現場が立体的に想像できるように試みている。教科書やガイドラインがある疾患に関しては、それらを自分で確認するよう指導している。ガイドラインは膨大な文書量からなるため、授業では贅肉をそぎ落とし、エッセンスだけを伝えざるをえない。しかしながら、本来はガイドラインを隅から隅まで読み、かつ自分が疑問に思う点があれば、参考文献から孫引きをしてその論文の精度も確認すべきである。そのことから、授業を聞くのみではなく、ガイドラインを最低でも一読するよう伝えている。

アクティブラーニングについての取組

実施していない。

ICTの教育への活用

実習中などに動画を確認できるようにタブレットを活用させている。

4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）

※A（十分実施している） B（実施しているが十分でない） C（うまく取り組めていない）

①教育（授業、実習）の創意工夫（A）

教科書に加え、実例を交えることで学生の興味を惹き、自分で調べると言った自主性を持たせるようにしている。実習中には学生に質問し、回答させることで考える力を養成している。

②学生の理解度の把握（B）

実習中には、学生に積極的に質問し、回答させることで理解度を把握している。

③学生の自学自習を促すための工夫（B）

実例を示すことで臨床への興味を誘発し、少なくとも一度は自分で調べるように指導している。調べ始めると自分が分かっていないことに気付くため、自主性の養成に繋がると考えている。

④学生とのコミュニケーション(質問への対応等)（A）

質問がある場合は、対面でもメールでも対応している。必要に応じて全体に周知することもある。

⑤双方向授業への工夫 (B)

実習などでは学生の手技を確認したり、質問を受けたりすることで一方通行とならないように気を付けている。

⑥国家試験対策としてどのような取組をしましたか。

過去の国家試験問題から頻出する疾患や病態を調べ、授業中に出題頻度とその詳細を示している。また、画像や動画などを交え、視覚的理解が出来るような授業を実践している。

5. 学生授業評価

①授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。

現時点では明らかな指摘はないが、毎回確認しており、必要に応じて授業に反映しようと思っている。

② ①の結果はどうでしたか。

③ ②を踏まえて次年度はどのように取組みますか。

6. 学生の学修成果

① 学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。

学生に興味を持たせることを最優先しており、自ら調べたいと感じる自主性こそが成績向上に必要と考えているため、すべての内容を一方的に伝えることはせず、情報を示し、その結果から自ら考え、自ら調べる余地を残すようにしている。

②教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価

学生アンケートでは、授業が分かりやすいとのコメントがあった。

7. 指導力向上のための取組 (FD 研究会参加状況)

診療や他の業務が多く、あまり参加出来ていない。ただし、他の教員の授業はどのようなものかは気になっている。

8. 今後の目標 (理念の実現に向かう今後のマイルストーン)

引き続き、視覚や聴覚を用いた授業を実践し、学生に臨床に興味をもってもらい、卒後は麻布大学に研修に戻ってきたいと思うような環境を整えたい。

9. 添付資料 (根拠資料) (※) 資料名のみ

學理の学生アンケート